



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Misson with Faith” 「信念あるミッション」
“Through Love. Service” 「愛をもって奉仕しよう」
「原点に立って、未来へステップ」
「ワイズメンとして一歩前進」
「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2015年9月号

NO 469

若者は幻を見、老人は夢を見る。

新約聖書 使徒言行録 2章 17節

「ユースの月」に想う

山田利三郎

今期から社会福祉法人興望館の顧問弁護士に大槻展子さん（東京クラブ）を推薦し、理事会で受け入れられました。ご存じのとおり、彼女はクラブ会長や東日本区の要職を奉仕なさった方で、かつてはユースでも活躍しておられました。父君は京都グローバルクラブのメンバーで、区理事に就任間近に急逝し惜しまれた方です。奥様はその後、メンバーになりました。ユース出身の方が見事、花開いた喜ばしい実例です。

「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る」（使徒2・17）。ペンテコステに与えられた（ヨエル書3・1）の預言です。

私は先月、米寿を迎えましたが、高齢者のミッションとは何かと問われ、考えています。当クラブも来年40周年を祝います。

クラブリーダーは言います。「少しでも前へ進もう、あがいてみよう」、「まだまだ面白いと思いたい、言われたい」。

人のため、世のため、隣人のため、YMCAのため、奉仕する仲間を増やそう。老若男女を問わず仲間を増やす夢を実現しましょう。当クラブではユースが現状ではありません。しかし、区全体を見れば多くの潜在者がいます。ユースを育てる場を広げましょう。

第28回リーダーズフォーラムは、9月11日（金）から13日（日）まで、東京YMCA山中湖センターで行われます。区のユースボランティア・リーダーズフォーラムを応援することも夢を実現させる一歩です。

当クラブからは、長い間、委員を勤めた大野貞次さんが夢を見続け出席しました。YMCA活動を続ける高嶋美知子さんも出席しました。

ユースを探し求め、開発し、育てる方策を研究しましょう。

古典ピアノの音色くらべ WHO、神宮の杜を歩く

まだまだ暑さが残ります。

WHO ウォーキング9月例会は、無理をしないで、モーツァルト、ベートーベン時代のピアノの演奏や、オルゴールの響きに耳を傾けます。その後、新国立競技場の建築問題で揺れている神宮外苑の緑陰を歩きましょう。

期 日：9月26日（土）

コース：メトロ丸ノ内線・四谷三丁目駅ー消防博物館ーお岩稲荷ー民音音楽博物館ー国立競技場跡地ー神宮外苑の緑陰散歩ーJR千駄ヶ谷駅

集 合：メトロ丸ノ内線・四谷三丁目駅舟町方面改札口
9：30

解 散：JR千駄ヶ谷駅 14：00

参加費：300円（交通費・施設利用料は各自負担。今回は入館料はなし）

携行品：飲み物、雨具、日除け、昼食は現地調達。

クラブ役員

会 長 大野 貞次
副 会 長 高嶋美知子
書 記 篠原 文恵
会 計 石井 元子
担当主事 小畑 貴裕

8月の記録			ニコニコ	9,600円
在籍者数 (内功労会員)	17人 1人	メネット	1人	クラブファンド 0円
例会出席者数	13人	コメント	0人	ファンド残高 349,919円
メーカーキャップ	2人	ビジター	1人	ホテル校ファンド 0円
出席率	94%	ゲスト	0人	ホテル校残高 24,248円
前月修正	-	出席者合計	15人	WHO参加者 一人

9月例会のご案内

今月の強調テーマ： ユース

今月の卓話は、「損害保険」についてうかがいます。大きな事故を起こしたり、商品の欠陥がリコールに繋がって大損害を受けた筈なのに、企業は好決算ということがあったり、人々の生活も何事もなかったように流れています。多分、社会の仕組みの中に損害保険が組み込まれて、見えないところで働いているのでしょう。

保険とはどんな仕組みなのか、どんな保険が可能なのか、まじめな「おもしろ話」をうかがいます。ぜひ、ご友人をお誘いください。

日時：9月17日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円 (ゲスト、ビジター、メネット)

担当：C班 (小畑・鳥越・小山・本川・山田)

HAPPY BIRTHDAY

5日 庄野 久男 23日 本川 悦子

25日 高嶋 君弘

受付 鳥越 成代
司会 本川 悦子
大野 会長

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

挨拶と紹介

挨拶

小山多喜子
大野 会長
あずさ部長 標 克明氏
(甲府クラブ)

会食

一 同

卓話 「損害保険おもしろ話」

直前区理事 田中博之氏

(東京クラブ)

ハッピーバースデー

ワイズ報告

YMCA報告

スピーチ (ニコニコ)

閉会点鐘

大野会長他

小畑 主事

一 同

大野 会長

— 8月事務会報告 —

日時：8月27日(木)

19:00~21:30

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、木原、篠原、高嶋、本川、山田紀、山田利、吉田

<報告事項>

- ①8月のデータを確認した。
- ②8月の経常会計を承認した。
- ③会員の近況が報告された。
- ④8月29日に東陽町センターで行われる東京 YMCA 夏まつりへの参加者の確認(大野、神谷、高嶋)。
- ⑤9月23日に江東区木場公園で開催される東京 YMCA チャリティーランへの参加者確認(大野、神谷、篠原、鳥越)。
- ⑥9月11日に山中湖センターで開かれるユースボランティアリーダーズフォーラムへの参加者確認(大野、高嶋)。

<協議事項・例会関係>

▲10月例会

日時：10月15日(木)

会場：あんさんぶる荻窪 5階

卓話：未定

担当：A班—吉田、石井、木原、篠原、堀内、山田(紀)

▲11月例会

日時：11月19日(木)

会場：未定

卓話：未定

担当：B班—神谷、河原崎、高嶋、竹内

▲12月クリスマス例会

日時：12月17日(木)

会場：中野サンプラザ・15F

担当：C班—山田、小畑、小山、鳥越、本川

<協議事項・例会以外>

- ①功労会員の年会費について協議した。
- ②「クラブ40周年記念祝会」の講演者候補が挙げられたが、決しなかった。9月10日19:00、ピアンタで行う次回準備委員会で再検討する。クラブメンバーの統一名刺のパターンも次回検討する。

(書記・篠原文恵)

卓話者紹介

田中博之さん(東京クラブ)

1976年、東京海上火災保険(株)に入社されて以来、システム部門、広報部門、海外部門、企業営業部門、損害部門、研究部門とさまざまな分野を経験されました。なかでも宇宙保険の分野では世界のトップリーダーのひとりでした。現在もワイズ活動の合間に後進の指導にあたられています。

ワイズでは、6月に東日本区理事の大任を終えられたばかりの直前理事。東日本区国際・交流事業主任、LT委員長、東新部部長、ITアドバイザー、アジア地域会計、国際本部IBC事業主任などを歴任。

また、2010年横浜国際大会HCCの事務局長を務められ、今年8月京都で行われたアジア地域大会の開会式では、進行を担われ、大会の盛り上げに貢献されました。

多摩に新クラブの胎動

東京 YMCA 町田センターの 25 周年記念会 & 東京まちだクラブ・東京コスモスクラブの合同例会が、8 月 10 日夜、町田市民フォーラムで催されました。

町田センターは、1998 年に杉並センターと同様、スタッフレス、オフィスレスになりました。

その後、町田の両クラブは、高齢者を対象とするプログラム、中高年者の力を生かした「わくわく子ども実験教室」などを開催し、一方では地域の施設や福祉団体と協働して、地域密着の活動を続けてきました。それだけに、地元の方々の祝辞にも親しみがありました。

合同例会の記念講演は、元国際会長・藤井寛敏さんの『グローバルな視点・ローカルな活動』。

「カモン・ガッツ！」の藤井さんは、イメージ一新、スライドを用い、淡々と、ワイズの現状と日本のクラブの位置、国際における変革を分かりやすく話し、ローカルにおける EMC 現状、特に会員増加のためには新クラブ設立以外ないと説きました。

会食は、メンバーが準備したビュッフェスタイルでした。

その後、(仮称)多摩センタークラブの設立構想が報告されました。例会予定会場は桜美林大学アカデミーヒルズ、場所はスポンサークラブは、両クラブで、協力スポンサークラブは東京武蔵野多摩クラブ、東京八王子クラブ、に東新部が加わります。

入会候補者は、現在 15 人、30 人を目指していて、ぜひ多摩市近在の候補者を推薦してもらいたいとのことでした。

この日の参加者は、地元の方を含めて 60 人ほど。ワイズメンは、東新部を中心に 13 クラブから集いました。冷房の室内でしたが、外気温に負けない熱気が満ちていました。(吉田明弘)



美声のご披露・竹内隆さん

－ 8 月納涼例会－

おいしい料理とメンバースピーチ

8 月は恒例の納涼例会。会場は以前にも利用したことのある荻窪駅に近いレストラン「クレール・ド・リュヌ」。卓話なしのおいしい料理とお酒とそして交流を大いに楽しもうという趣向。

開会セレモニーの後、直ちに山田利三郎さんの発声で乾杯し、本格的フランス料理による会食に。

本日のメインイベントはお互いをより知り合うためのメンバースピーチ。題材は自由ですが一つを原則としました。題材の例として司会者は下記を提示しました。

- ・クラブ創立 40 周年
- ・最近起こった身近な出来ごと
- ・私の趣味 (かくし芸披露)
- ・最近の世情に思うこと
- ・自分はこんな仕事をやってきた
- ・クラブ活動について

トップバッターは推されて竹内隆さん。声楽家であるお嬢様の指導を受けてレッスンに励んでおられるとか。あらかじめプリントされた歌詞が配られ、1 曲目は「あざみの歌」を 3 節までを見事に歌い上げられました。2 曲目は「知床旅情」。1 節は独唱、2、3 節を皆で合唱しました。今までの例会では味わったことのない素晴らしいひと時でした。

続いてビジターの田上正さんを含めてお一人ずつ、かくし芸的パフォーマンスはありませんでしたが、日頃考え、思っていること、楽しかったこと、感激をもって経験されたことなど、その人を知る

ことの出来た心の通った素晴らしいスピーチが続きました。デザートが出されたところで終わりになり、後のプログラムの時間がなくなるほどでしたが、ハッピーバースデー、YMCA 報告、ワイズ報告は若干端折られ、楽しい例会はお開きとなりました。

(神谷幸男)

出席者：石井、大野、小畑、神谷、河原崎、小山、篠原、高嶋、竹内、鳥越、本川、山田(利)、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>田上正(熊本むさし)、<メーカー>木原、山田(紀)



長野県・栄村の物産品の売り子を務める東京西クラブメンバー

東京YMCA夏まつり参加記

今年も東京 YMCA 夏まつりは東陽町センターにて 8 月 29 日(土)に開催されました。

11 時 30 分開場と同時にメイン会場は模擬店に客の人だかりができるほどの大繁盛。特に焼き鳥コーナーは長い列ができるほど。

子どもコーナー、被災地応援販売コーナー、バンド演奏、お楽しみ抽選会などをお子様連れの会員さん、久しぶりに YMCA に顔を出した古くからの会員、ワイズメンらが祭り気分を楽しみました。古くからの会員の方々のお顔が少なかったように思われ、少し寂しい気もしました。

当クラブは昨年に引き続き「東京西クラブ」と書かれた飾り提灯の下で被災地応援販売コーナーで、長野県・栄村の物産品販売を行いました。ささやかですが収益を東京 YMCA に献金することもできました。(神谷幸男)



台北セントラルクラブの林会長ご夫妻を囲んで記念撮影。同行した当クラブの高嶋さんの不在は残念！

第26回アジア地域大会 参加報告

“未来を始めよう、今すぐに”をテーマに、京都ウェスティン都ホテルにて7月31日(金)～8月2日(日)の3日間、アジア地区のワイズメン914人・ユース48人の計962人が参加し開催された。当クラブからは高嶋・吉田・大野の3人が参加、31日の朝東京駅で待ち合わせ京都へと向かった。

暑い！、会場では多くのマーシャルと祇園祭りのお囃子に迎えられ会場入り、多くのワイズメンと挨拶、特に台北セントラルクラブの林さんご夫妻との再会は嬉しかった。

13:30 いよいよ開幕、オープニング映像に続き、クリスチャンバナー・アジア地域フラッグ・聖書・ギャベル・キャンドル、各地区のフラッグが入場し、岡野泰和アジア会長の力強い開会宣言が行われた。

角川大作京都市長、山田公平アジア太平洋YMCA同盟総主事、アイザック直前国際会長の祝辞をいただき、表彰式、国際会長・国際会計・アジア会長、執行役員の就任式が藤井寛敏元国際会長の司会により執り行われた。

新しく国際会長になられたウイッチャン氏、アジア会長のエドワード氏の挨拶が行われ、開会式典は無事終了した。

基調講演は宇宙飛行士・毛利衛氏、テーマは「宇宙からの贈り物」。毛利さんの映像が映し出され、ご本人の登場を万雷の拍手で

迎え、宇宙での様々な実験・暮らしぶり・技術革新等々の有意義な話を映像を交えながら語られ、貴重な体験となった。

18:30 から直前会長主催

の晩餐会、韓国エリア会長の挨拶で始まり、岡野アジア地域直前会長の素晴らしいスピーチで会場は盛り上がり、17世紀から受け継がれてきた京都の伝統芸能・舞妓さん、芸妓さんによる舞いが披露され堪能。食事も美味しく各テーブルを回られた芸妓さん、舞妓さんとの対話や写真撮影を楽しんだ。台湾のリーさんを始め台湾の方々との交わりを楽しみ、第1日目は終了、2日目以降もスケジュールに添って楽しんだ。

2日目の晩餐会終了後に、京都市内の京都ウエストメンバーのお店で「西クラブ連合」のDBCの交わりの会が行われました。

(大野貞次)

ワイズにとって若者って何？

区ユース事業主任 浅羽俊一郎
(東京山手クラブ)

私の社会人人生のスタートは東京YMCAの江東ランチでした。そこでの青年成人会員や少年リーダーとの交流体験がそのまま私のYMCA像です。

転職先のUNHCRの仕事は若者を対象としたものではありませんでした。それでも東京在勤中は大学を廻って学生たちと難民問題を話し、最終勤務地のパキスタンではアフガン青年たちが劣悪な環境でも懸命に勉学に励んでいるのを見て、若者への関心が蘇りました。

ところが現在東京YMCAの一会員として関わっていて気がつ

いたことがあります。YMCAに若者の居場所がないという事実です。確かにプログラム参加者、活動ボランティアとしては来ますが、決して主役ではないのです。お膳立てされた環境の中でも、確かに若者は体験し、成長します。でも、自分たちが主体となって何かを始め、一緒に行動し、結果に責任を持つ、そのような場は今ありません。

YMCAはいま若者を語っているのでしょうか。若者が語っているのでしょうか。むしろ自分たちで何かやりたい若者は、今YMCAには来ないと思います。

ワイズはどうでしょうか。「若者との接点がない」「若者がワイズに来ない」「YMCAが紹介してくれない」という意見を耳にします。まず私たちから若者に歩み寄りましょう。それもYMCA外の若者たちに近づき、虚心に彼らを知ることから始めましょう。

地域には様々なサークル活動や奉仕活動を続けている高校生や地元の若者がいます。彼らから話を聞き、面白ければブリテンで紹介して下さい。東京西クラブとして手伝えることが見いだせるかもしれません。そうでなくても、若者たちの主張や悩みに耳を傾け、場合によっては相談に乗ってあげられれば、立派なユース活動になると思います。最後に、ワイズにとって若者って何でしょうか？ユース事業に携わってきたワイズメンにとって彼ら一般名詞でなく、具体的に顔の見える、個性もまちまちな若者です。彼らとのやりとりの中で、彼らの質問に戸惑ったり、こちらの言ったことに感心されたりすると、つい楽しくなり、何か一緒に活動出来るかな、そんな気にさせられます。そんなとき、ワイズにとって若者って「パートナー」かなって一瞬思えてしまいます。東京西クラブにはユース事業委員会にご協力いただいております。

☆☆ インタビュー ☆☆ 小山憲彦さんに聴く

* * *

小山憲彦さん（東京サンライズ）は、区の役目をいろいろやられ、現在は区事務所職員を務められています



—9月にBF代表としてオーストラリアを訪問されるパートナーの久恵さんに同行されますね。

「瓢箪から駒で、女房のかばん持ちで行くことになりました。特に何をしたい、これを見たいということはありません」

—小山さんの親族にワイズメンが非常に大勢おられますが。

「小山憲彦（本人）、小山久恵（妻）、故・小山五郎（父）、故・菰渕富士子（叔母）、故・菰渕輝彦（叔母の連れ合い）、菰渕光彦（従兄弟）、小山正直（叔父）、故・照山虎寿（母の叔父）、故・照山寛爾（母の従兄弟）です」
—すごい。入会された順は。

「①虎寿（熊本、後に東京武蔵野）②輝彦（東京山手）③莞爾（千葉）④五郎（東京山手）⑤正直（東京山手、現東京まちだ）⑥憲彦（東京サンライズ）⑦光彦（同）⑧久恵（同）です」

—コメントだったんですね。小山さん自身は、コメントとしてYMCA キャンプに参加していましたか。

「親父が78年にワイズに入るまでYMCAとの関係はありませんでした。当時、私は、コメントとは言えない、32歳でした」
—子どもの頃は。

「単なるいたずらっ子で、ひんしゅくを買っていました」
—何になる積もりでした。

「船（護衛艦）に乗りたいと思っていました。当時の受験資格は、機関科でも裸眼視力0.6以上だったので船乗りはあきらめ、『ドクトルまんぼう』に影響されて船医になろうかと思いました。でも最初についた職業は旅行業でした」
—ワイズメンになったのは。

「1989年、東京サンライズのチャーターの時に親父の命令でした。山手が子クラブを作ることになり、身近に一応若い者がいたからじゃないですか」

—京都の学校を出られた久恵さんとは、どんな縁でしたか。

「最初に英国に行っていた時に同じ語学学校に通っていました」
—英国には、その後も。

「最初は1973～1976年に遊学。2回目は、1995年～1998年。高校生の息子も一緒でした。ロンドンの日系診療所で総支配人。実際は健康診断のセールスで英国中を飛び回っていました」

—ビールのこだわりは、パブでの影響ですか。

「ですね。ラガー、ビター、エール、スタウトなどなど。銘柄も大手から輸入物、地ビールまで種々多彩。美味しいものからまずいものまでたくさん飲みました。安かったし」

—東京サンライズに入会されて。

「奈良昭彦さんを中心に若いメンバーのクラブをつくろうとした時に、みんな仕事は忙しく、夜早く集まることは、難しい。それなら朝にやろうということになったのです。5年ほどやって、出席率が低調なので第2例会を夜にやってみました。でも、朝も夜もメンバーはほとんど同じ。それなら夜にしまえと。ある時卓話にソムリエをお願いしてワインのテイastingをしました。それが好評で毎回例会でワインを楽しむようになりました。サン

ライズは例会とその後の気軽な店での『本音で語ろう会』がセットになっているので、冷めた弁当は後のビールにさわるので、例会での食事は止めにして、例会後に暖かいものを取るようになりました」

—ブリテンエディターは。

「1999年から第4代目のエディターになって以来です」

—小山さんが区の国際交流事業主任の時に、STOP! HIV/AIDSがありました。

「もともとは、国際協会がUGP5か年計画を突然発表し、STOP! HIV/AIDSを行うということになり、浅見隆夫理事とどうしようと戸惑ったことを覚えています。結局、エイズ啓蒙のCDを作成し各クラブに配布、皆様の迷惑を顧みず、資金集めにエイズバッジを売り歩きました」

—久恵さんは「ノリヒコを参謀にしたら得ですよ」と言ってますが。

「号令をかけるとか、参謀というタイプではなく、コツコツと雑用をこなす裏方タイプです」

—号令はかけないけど、周囲への影響力はありますよ。区事務所から観て、元気なクラブに共通する何かがありますか。

「例会の持ち方など、きちんとワイズの伝統を守っていること、地域密着の目に見える奉仕活動を行っていることでしょうか」
—ワイズメンになったために変わったということがありますか。

「入会後の1年は、それまで口をきいたことのあるメンバーが1人もいなくて、例会に出席するのは苦痛以外の何物でもなかったのですが、チャーター記念の山中湖キャンプ場のワークで生涯の友に巡り合い、それ以後ワイズにのめり込んでいます。お蔭で周りにはワイズの友人しかいなくなり、ちょっと困惑しています」
—ありがとうございます。

（吉田明弘）

骨はからだを形づくる土台です。そして肺や脳などの臓器を衝撃から守る役割を持っています。

大人の場合、約 206 個の骨が骨格を形成しているといえます。

年齢を重ねてからの骨のトラブルで最も多いのが「骨粗しょう症」で、加齢とともに骨量が減り、骨折しやすくなります。骨粗しょう症による骨折で目立つのは背骨の圧迫骨折です。これは背骨を構成している椎骨が、まるで空き缶をつぶしたように骨折するもので、痛みを伴わないこともあり、骨折していることに気付かない場合も多いようです。そのまま放っておくと、1 年以内にふたたび圧迫骨折を起こすことが分かっています、背骨の別の椎骨がつぶれてしまうので、次々と骨折することで背中が丸くなり、さらに内臓を圧迫して血流も悪くなるので、もし若い時に比べて身長が 4 センチ以上低くなっていたら、背骨が折れている恐れがありますから整形外科で受診して下さい。

骨粗しょう症を引き起こす原因には、骨量が低下した「スカスカの骨」だけではなく、骨の質（骨質）も関係があります。骨は鉄筋コンクリートに似た構造をしています。骨の中に鉄筋のような骨組みがあ

休まず、楽しく、頑張らず！

こおちゃんの *Wellness*

骨を守ろう

2011年1月掲載 堀内浩二

り、骨が折れないよう骨を守る働きをしています。この鉄筋の役割をしているのが、コラーゲンなどのたんぱく質で、コンクリートにあたるのがカルシウムなどのミネラルです。このコラーゲンの質が良ければ柔軟性が十分あるので骨折しにくくなります。

骨量だけでなく骨質に目を向けることも重要で、骨質の決め手となるコラーゲンは要所要所で架橋の役割を持つ物質でつなぎ止められています。ところがその物質には「善玉」と「悪玉」があり、悪玉が多くなるとコラーゲンが劣化しやすくなり、骨質の低下につながります。骨質を良くするには、抗酸化ビタミンを積極的に摂ることが大事で、ビタミン C（野菜、果物）、E（ナッツ）、B6（肉、魚）、葉酸（レバー）と骨の成分となるカルシウム（乳製品、小魚）もきちんと摂る。そして適度な運動が丈夫な骨を作りますから、毎日少しでも続ける事が大切です。

生活習慣病は、活性酸素や酸化ストレスのもととなって骨質を劣化させてしまうので、骨密度が正常でも注意が必要です。骨は 4 ヶ月で新陳代謝をします。若いときほど盛んでないものの、高齢でも代謝は行われますので骨量アップの対策をしましょう。

老後の楽しみと目標

本川悦子

杉並に拠点をおいている日本フィルハーモニー交響楽団の事業の 1 つに、「60 歳からの楽器教室」があります。ちょうど老後のことを考えているときに募集の記事を目にしました。

楽器の種類は、ヴァイオリン、チェロ、フルート、クラリネットの 4 種類で、現役の楽団員の指導が受けられるのです。

早速ヴァイオリンの教室に応募しました。私は小さい頃にヴァイオリンを習っていたことがあるので、少しは馴染みがありましたが、一緒に入室した同期生のほとんどが初めて楽器を持った初心者ばかりです。でも、1 年経つ頃には楽団の先生の指導のおかげで、何とか簡単な合奏ができるようになりました。

楽器教室を何年か経験してから（楽器教室は 1 年単位です）、チェロ、ピオラが入って合奏団を

結成し、指導を日本フィルの OB の先生にお願いしました。

最初はなかなか合わせるのが大変でした。何とか少しずつでも前に進めるよう努力して 6 年が経ちました。と同時に団員の年齢も 6 年分上がりました。80 歳代から 60 歳後半になってしまいました。

ヴァイオリンを弾くには、同時に 3 つの異なった動作をします。＜右手、左手、楽譜を見る目＞です。右から、認知症にはなりにくい筈ですが、先生の言われたことを理解するのに時間がかかったり、忘れたり…、練習の度に先生の根気の良い指導に頭の下がる思いです。

今日、当クラブの納涼例会で、竹内隆先生が見事な歌声を披露して下さいました。私たちもまだまだ前進できるのではと、勇気と希望をいただきました。

高齢者集団ではありますが、目

標は高く、ビジュアルディーの「四季」の、せめて＜春＞が演奏できるように頑張ろうと思いました。

BF使用済切手 報告

前期 2014～2015 年度分を 5 月 12 日に区事務所に送付しました。

内容は国内切手 1825 g、海外切手 100 g、前期の報告に間に合いませんでしたので今期分に計上されます。

送付方法が変更になり区事務所よりまとめてフクオさんに送るようになりました。

ちなみに今年度の現時点での提出は、竹内隆さん 260 g、鳥越成代さん 61 g です。

編集後記

今月も、多くの方々の協力を頂き発行出来ました。感謝します。皆様お元気でクラブライフをお楽しみ下さい。 (R. Y)